



『限界を超える』

山口県

白石少年剣友会

中学1年生 鮎川京佳

目の前が、まっ暗になり身体が前へ出ないそと背中手に手を置き、支えてくれる先輩にただついていくのが、せいっぱいでした。全国中学校選手権大会の山口県予選、準決勝試合が終った後の私でした。中学に入学し初めての大切な試合で一本とられてしまい、あせっていました。私は、とらなければ、絶対負けるわけにはいかない。勝てるはず、努力はしてきた。集中して試合に挑んだが、とりかえすことができませんでした。先輩達が戦っている時も、落ちつかず祈るだけでした。チームが負けてしまったのですが、1年生の私を先輩達は責めることはしません。むしろ自分達の責任とやさしい言葉もかけてくれました。あの時、大将まで勝負がまわせていたら、せめて私が引き分けていれば後悔ばかり。考えすぎて、何も手につかない日々が続きました。

日頃、明るい性格なので、いつも笑顔で活発に過ごしていますが、家に帰ると落ち込みの日が続き、両親の励ましの言葉にも耳を傾けることができず、反発し、その後の試合もスランプに入り、なかなか勝てなくなりました。すぶりをしても、何か落ちつかない。このままではダメだ。自分の何かを変えなければと考えてみたけれど、どうしても素直になれない。本当に、辛い日々が続いたのです。

練習の後、袴を洗い干していた時、折り目をひとつひとつ正しながら、はっとしました。もっと練習したい。初心にかえろうと。部活後も道場に通り基本から学び、反省しながら必死に練習に向かいました。恩師の先生に、「エンジンのない車は、ただの箱だ。」「やる気のない人間はただの人形にすぎない。」「この一分一秒をどう考えて行動するかで、全く違う結果が出る。」結果はすぐには出ないが、出るべきときにでる。と言われ、背筋がピンと伸び、全身に何かを感じました。「はい」と返事の声も大きく言えた気がしました。

いつも、与えられた内容をやりこなす。できることしかしていない。これだけやっているのにという自己満足。自分が恥かしく思えて今すぐ改めなければという思いが強くなりました。毎日、部活動も真剣にとりくみ、足さばきが悪いことにも気づき、すり足を家でも毎日練習しました。一本きめる思いで、すぶりをする。厳しい練習はみんなしているはず。限られた時間の中で、気持ちを集中し試合前だけでなく、日々の努力と気合いが必要なのだ。あたたかく迎えてくれる道場の先生方、仲間、部活の先輩のいいところを見つけとりいれたり感謝の気持ちも芽生えてきました。私に欠けていたことが、ひとつひとつ見えてきました。負けたら終りではない。やめてしまったら終りなのです。選手として戦う以前に、自分自身に負けてはいけません。まさに限界を超える！なのです。指導して下さる先生方の話しをしっかりと聞き、自分に吸収していく、学業も集中し納得するまで学ぶように心がけ、ここまですればいいの考えをすてみんなより倍努力する何事にも挑戦する心をもつことにしたのです。

心を入れかえると、今まで見えなかったことも見えてきました。私ならできると、励ましてくれる先輩、仲間、チームワークの大切さ。今できることを一生懸命にする。そしてもう一歩すすんで練習をすることにより気持ちも高まり自信にもつながっていったのです。誰かと比べるのではなく、自分の弱点や足りない部分を認め、改め、強さに変えていく為に、切磋琢磨することも大切なのだと気づきました。大きな失敗をしても、一緒にのり超えられる仲間が私にはいます。

これから、どんなに苦しい状況にあっても諦めず限界を超え前にすすむと必ず良い結果がでると剣道が続けてきて学びました。

私は、文武両道はもちろん、常に心を正し一日一日を真剣に生き将来の大きな目標に向かって、向上心を持ち、心身共に成長していきたいと思います。